

令和7年度

みんなで作る

チャレンジタウン

実施報告書



運営 特定非営利活動法人子ども&まちネット



もくじ

- 1 事業概要・実施スケジュール
- 2 体験講座実施報告
- 3 サポーターミーティング実施報告
- 4 チャレンジタウン実施報告
- 5 アンケート報告
- 6 終わりに
- 7 団体概要等



事業概要

本事業は、愛知県内の障害のある小学生～高校生が、自分の将来や「はたらくこと」について考えるきっかけをつくることを目的としています。私たちは、子どもたちが自分の未来を少しずつ思い描きながら、社会とのつながりや自分らしい生き方に気づいていくことを大切にしています。

体験イベント・障害児版“子どものまち”「チャレンジタウン」では、仕事をする、買い物をする、税金を納めるといった社会のしくみを、遊びや体験を通して楽しく学ぶことができます。「はたらく」に触れる体験を通じて、社会性や自主性を育む機会を提供します。

また、本事業では、参加する子どもたちを見守り、支えるサポーター（支援者）の育成に取り組み、参加した当事者や保護者・支援団体の方々・サポーター同士が情報を共有し、ゆるやかにつながるネットワークを通年で行うことで、地域全体で障害のある子どもや若者を支える土台づくりと、障害への理解促進を目指しています。



実施スケジュール

2025

6月

サポーター募集

6/22(日),7/6(日)
8/17(日),10/5(日)

サポーターミーティング

11/3(月・祝)

サポーターミーティング、第1回体験講座

11/30(日)

サポーターミーティング、第2回体験講座

12/7(日)

サポーターミーティング、第3回体験講座

2026

1/11(日)

当日サポーター研修、第4回体験講座

1/12(月・祝)

サポーターミーティング、第5回体験講座

1/17(土)

当日サポーター研修、チャレンジタウン当日

1/18(日)

サポーターミーティング、チャレンジタウン当日

2/1(日)

サポーターミーティング、第6回体験講座

3/1(日)

事業報告会

体験講座参加者募集概要

「まちづくり」を学ぶ体験講座を通して、みんなで楽しい“仮想のまち”をつくりまします！

募集締め切り 10月5日

対象 障害のある小学4年生～高校生世代

定員 30人

申込先・問合せ 特定非営利活動法人子ども&まちネット

体験講座

コーディネーター 田中 弘美
講座講師 重原 厚子

体験講座

1 はたらくことについて学ぼう



1. あいさつ・事業の説明
2. 自己紹介
3. 講義

『はたらくことはどういうことか考えてみよう』

体験講座第1回では、まず、参加者一人ひとりの自己紹介を行い、これから共に活動していくメンバー同士がお互いを知り、安心して関われるような時間を設けました。その後、チャレンジタウン本番に向けた学びの導入として、「はたらくこと」をテーマにした講義を実施しました。講義では、仕事をするうえで大切な基本的なルールや、なぜ人は働くのかといった点について考えました。

給料と税金について学ぼう



1. 講義

- 『お金と仕事の大切な関係』
- 『お金の大切さ、価値を学ぼう!』
- 『どうして税金が必要なのか』
- 『税金の種類』

2. 体験

- 『こどものまちを体験してみよう』

体験講座第2回では、「お金と仕事の関係」をテーマに、働くことと給料、税金の仕組みについて学びました。はじめに、仕事をすることで給料が支払われることを確認しながら、お金の大切さや価値について考えました。次に、給料から税金が引かれる理由や、税金が社会の中で果たす役割について学びました。身近な例を用いながら、税金の種類についても学びました。最後に、『こどものまちを体験してみよう』の活動を通して、働くこと・給料を得ること・税金を納めることをつながりを経験的に理解しました。子どもたちは、社会の仕組みを意識しながら主体的に取り組みました。

ハンバーガーができるまで ～商品に関わる人と仕事を知ろう～



1. 講義

- 『ハンバーガーができるまで』

2. 体験

- 『チャレンジタウンにはどんなしごとがあるといいかな?』

体験講座第3回では、商品は多くの人の関わりによって成り立っていることを学ぶための題材として、「ハンバーガーができるまで」を取り上げました。材料の生産から加工、運搬、調理、販売に至るまで、さまざまな立場の人が関わっていることを確認し、商品が私たちの手元に届くまでの流れを学びました。参加者は、一つの商品の裏側にある多くの仕事や役割を知ることによって、働くことや社会のつながりについて理解を深めました。

チャレンジタウンをはじめよう



1. 講義

『まちのルールを考えよう』

2. ワークショップ

『どのしごとにつくか決めよう』

『何を売るか考えよう』

体験講座第4回では、チャレンジタウン本番に向けた準備として、実際に「まち」を動かすための話し合いや決定を行いました。まず、参加者同士で意見を出し合い、みんなが安心して活動できるようにするための「まちのルール」について考えました。

その後、それぞれがどの仕事に就くかを検討し、自分の興味や得意なことを踏まえながら役割を決めました。さらに、各仕事で「何を売るのか」「どのような商品やサービスを提供するのか」について話し合い、チャレンジタウンの中での活動内容を具体的にイメージしました。本講座を通して、参加者は自分たちでまちをつくり上げていく意識を高め、働くことへの理解と主体性を育む機会となりました。

自分のお店の看板をつくろう

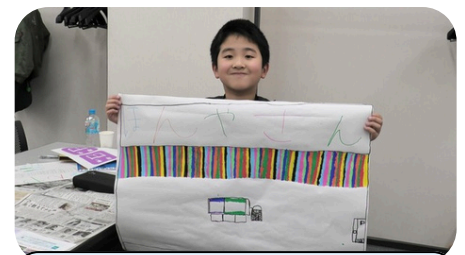
体験講座第5回では、第4回で決定したそれぞれの担当店舗について、オリジナルの看板づくりを行いました。参加者は、自分たちの店名やコンセプトを改めて確認しながら、「どのようにすればお客さんに伝わりやすいか」「どんなデザインなら目にとまるか」を考え、工夫を凝らして制作に取り組みました。



リサイクルショップ



トースト屋



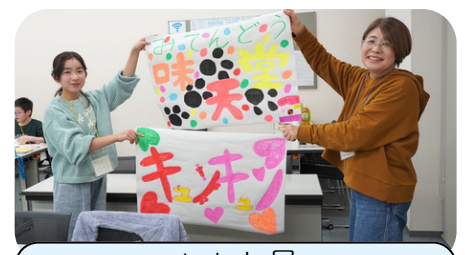
本屋



ジュース屋



文房具屋



おかし屋

チャレンジタウンを振り返ろう

体験講座第6回では、これまで実施してきた体験講座全体を振り返る時間を設けました。当日は、活動中に撮影した写真を見返しながら、そのときの気持ちや出来事を思い出し、ワークシートに記入しました。

参加者は、「楽しかったこと」「がんばったこと」「つぎにやりたいこと」などについて整理し、自分自身の気づきを言葉にしました。

本講座を通して、働くことやまちづくりについての理解を改めて確認するとともに、自分の成長や変化を実感し、将来への意欲を高める機会となりました。

子どもたちの振り返り（ワークシートから一部抜粋）

楽しかったこと

- ・仕事してたまったお金でばくがいたこと。(小4)
- ・ジャムやケチャップをパンにぬったこと。(小5)
- ・東山線の名刺（はがき型、A4、絵柄あり）を印刷する事が楽しかった。(中3)
- ・名しをこうかんしたこと。(小4)
- ・かぞくみんなのプレゼントをかったこと。(小4)

がんばったこと

- ・人のせっしかたもわからなくてあせった時もあったけど、上手にせっすることもできたこと(小4)
- ・せんでんでお客さんをよんだ（ノーマルトーストを買ってくれるように心の中でねがった）(小5)
- ・たいどわるくするとおゆがこぼれるからおゆのりょうをかんがえた(小5)

次にやりたいこと

- ・ほかのお店もやりたい（チャレンジタウンで出てきてないお店）(小4)
- ・100円ショップのいろんなシール（ボンボンドロップ）をやってみたい。(小4)
- ・宝石店、ゲーム屋、だれかのぐちをめちゃくちゃいえる店(小5)
- ・ナゾトキをといたらけいひんがもらえる店(小5)
- ・クレジットカードをつくる(小5)
- ・うまजूーのたんさんすいせんもんてんをつくる(小5)



サポーターミーティング

日程	時間帯	内容	会場
2025/6/22	14:00~16:00	事業説明 障害児者理解	子ども&まちネット事務所 zoom
2025/7/6	14:00~16:00	事業説明 障害児者理解	子ども&まちネット事務所 zoom
2025/8/17	14:00~16:00	事業説明 障害児者理解	子ども&まちネット事務所 zoom
2025/10/5	14:00~16:00	事業説明 障害児者理解 子どものまちについて	子ども&まちネット事務所 zoom
2025/11/3	10:00~12:00	体験講座①の説明	ウィルあいち 3F会議室6
2025/11/30	10:00~12:00	体験講座②の説明	ウィルあいち 3F会議室6
2025/12/7	10:00~12:00	体験講座③の説明	ウィルあいち 3F会議室6
2026/1/11	10:00~12:00	当日サポーター研修 体験講座④の説明	ウィルあいち 3F会議室6
2026/1/12	10:00~12:00	体験講座⑤の説明	ウィルあいち 2F セミナールーム6
2026/1/17	09:30~11:30	当日サポーター研修 チャレンジタウン運営	ウィルあいち 2F セミナールーム6
2026/1/18	09:15~10:00	チャレンジタウン運営	ウィルあいち 2F セミナールーム6
2026/2/1	10:00~12:00	体験講座⑥の説明 振り返り	ウィルあいち 3F会議室6

みんなで作るチャレンジタウン

2026年1月17日(土)・18日(日)

会場:ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

チャレンジタウン参加者募集概要

みんなで作るチャレンジタウン
ごどものまち
参加者募集中

1月17日(土) 13:00~16:30
1月18日(日) 10:00~16:00

会場:ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

対象:障害のある小学生4年生~高校生

お申込は こちらから
12月21日(日)まで

子どものまちって...?
子どもたちが「自分たちで運営するごどものまち」で働いたり
遊んだりしながら、社会の仕組みを楽しく学ぶプログラムです。
遊ぶを通して「社会の仕組みを知ること」や「
手助けの必要性を感じる力」を養います。
子どもたちの「はたらく」「遊ぶ」「まなぶ」を
サポートする場になります。

特定非営利活動法人
子どもまちネット

みんなで作るチャレンジタウン
ごどものまち
参加者募集中

1日 2026. 1.17 (土) 13:00~16:30
2日 2026. 1.18 (日) 10:00~16:00

両日とも、開催時間内出入り自由

申込み方法
・参加希望は1月7日(木)18時迄、両日を選択してください。
・参加者の内訳(「ごとのまち」運営、学芸、記録係、広報、メールアドレス、郵便番号、住所、連絡がとれる電話番号等、障がい者手帳の有無、障がい者手帳の種類(身体、知的、精神)等)、障がい者の利用(障、支援施設、通学)等について、障がい者手帳の有無を明記する場合は写真も添付し、全てご記入の上、下記ウェブフォームまたは、メール、FAXにてお申込みください。
・応募詳細の報告でもお一人ずつお申込みください。
・申込みの報告は、抽選により参加者を決定します。
・参加の可否については、2026年1月18日までに発表にて通知します。

注意事項
・チャレンジタウンでは子どもごとの支援を推進するため、保護者のご入場はご遠慮ください。
・保護者様・行動支援者の控室をご用意しています。
・運送は、保護者様への依頼を仰ぐいたします。
・本事業の中止・延期した場合は、ウェブサイトにSNS、報告書などでお知らせいたします。
・ご記入いただいた個人情報は、本事業の目的のみに利用します。
・内容は予告なく変更となる場合があります。

子どものまちでアースと会場を巡回するボランティアを募集しています。お申し込みは下記リンク先からお願いいたします。詳細は「お問い合わせ」ボタンをクリックしてご確認ください。お申し込みは必ずお申し込みの欄に記入ください。お申し込みから開催日の前日まで有効です。

特定非営利活動法人
子どもまちネット

052-768-5914
M+I | step.kemachi@gmail.com
〒466-0801
名古屋市中区長久保1-18-1(栄通郵便局1号棟)111号室
URL | https://kemachi111.com

お店一覧

公共(4店舗)

市役所

ガイダンスを行う、参加者の荷物を預かる

ハローワーク

参加者が仕事を探す

銀行

給料を支払う

税務署

税金を受け取る

飲食(3店舗)

うまじゅー・極み

3種類のジュースを売る

100チャレンジタウン店

5種類のラーメンを売る

ゴートゥーヘブン・トースト

3種類のトーストを売る

物販(6店舗)

ほんやさん

本を売る

キュンキュン

ハートの小物入れを売る

ecoエアコン快適

リサイクルショップ

便利な文ぼう具屋さん

文房具を売る

味天堂

お菓子を売る

ボクとかんがえるサイキョーのデザイン!!

名刺やポストカードを作って売る

会場図 (ウィルあいち2F)

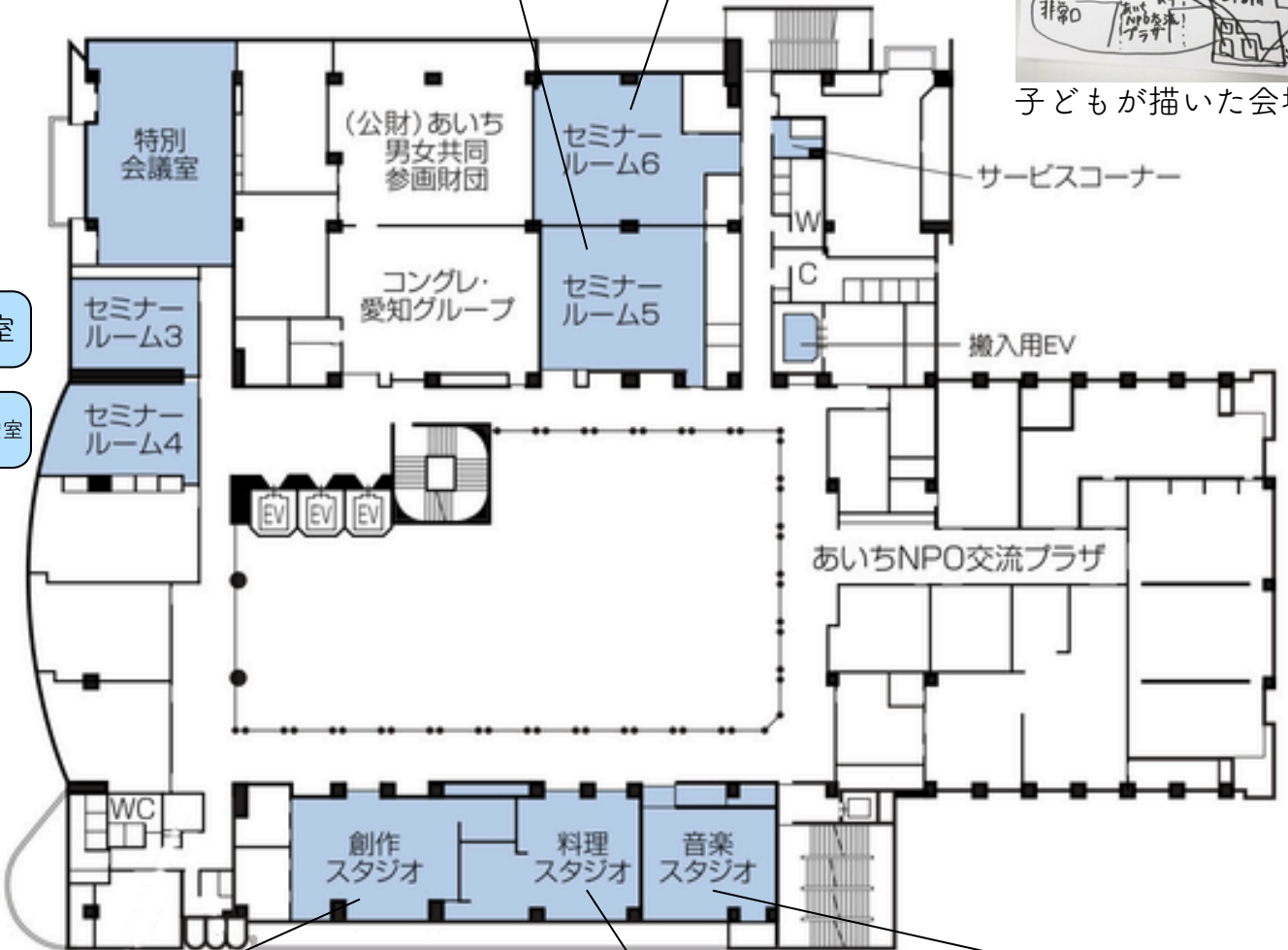


子どもが描いた会場図

リサイクルショップ	デザイン工房
本屋	文房具屋

サポーター控室

保健室
保護者控室



サービスコーナー

搬入用EV

あいちNPO交流プラザ

市役所	ハローワーク
銀行	税務署

ジュース屋	食券売り場
トースト屋	ラーメン屋

おかし屋	ハートの小物入れ屋
------	-----------



会場の様子

市役所



銀行



ハローワーク



税務署



ジュース屋



ラーメン屋



トースト屋



本屋



リサイクルショップ



文房具屋



デザイン工房



おかし屋



ハートの小物入れ屋



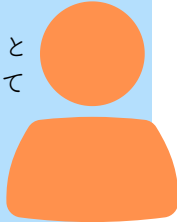


参加者及び保護者・事業所の声

Q.印象に残っている『帰宅後のエピソード』があれば教えてください。

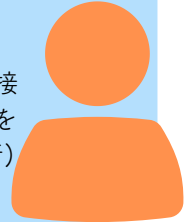
以前は働くイメージがなかった

以前は働くイメージもなかったと思いますが、お店屋さんで働いてみたいと言っていました。(小5 保護者)



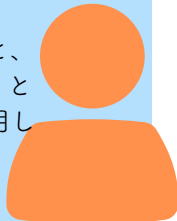
実際に参加してみて自信がついた

働くことの抵抗感がなくなり、達成感を感じていた。また、接客などで人へのサービス精神を学んでいた。(小4~小6 事業所)



具体的に細かく説明してくれた

自分が提案したものを売ること、またお客として買い物をすることの両方とも楽しかった、と説明してくれた。(小4 保護者)



目を輝かせて積極的に活動内容を話してくれた

普段は自分からこんなことがあった、と話して来ることはあまりないので新鮮な反応だな、と思った。(小6 保護者)



Q.チャレンジタウンのご意見・ご感想を教えてください。

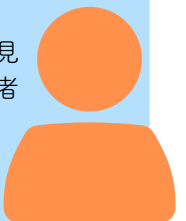
これからもぜひ続けてください

まだまだうちの子は理解はしていないので、また参加して少しずつ実社会に繋がっていったら良いなと思っています。(小5 保護者)



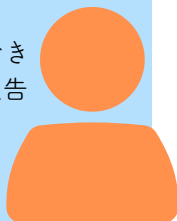
またぜひ参加したい

子ども達の自信に満ちた顔を見たら、楽しかったことが保護者にも伝わったと思う。(小4~小6 事業所)



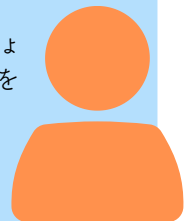
その日の簡単な報告があると安心できる

その日の事を家で詳しく説明できなかったりするので、簡単な報告があると安心できると思いました。(中3 保護者)



参加者が増えればもっと交流を楽しめた

PR方法を工夫してはどうでしょうか？例えば聾学校にチラシを送付するなど。(小4 保護者)



体験講座参加者のべ **36名**

体験講座講師 **2名**

当日参加者のべ **29名**

当日サポーターのべ **38名**

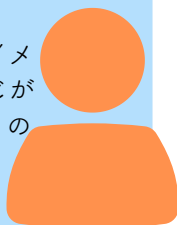


当日サポーターの声

Q.よかったこと・成果が出たこと

体験講座参加者の チカラに驚かされた

体験講座を重ねる毎に当日のイメージが組み立てられている感じが見受けられて、彼らのほんとうのチカラに驚かされました。



自分で考え、 次の行動に移していた

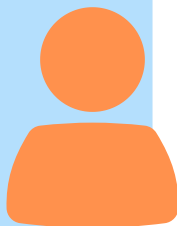
あれがしたいから、あと何みゃあ必要で、そのためにはあと何回お仕事をしたらよいか考える子がいた。



Q.問題点・悪かったこと

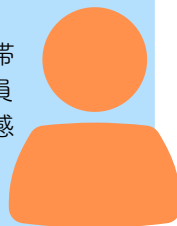
参加者に役割を 勧めてしまった

当日参加者が少ないこともあり、つついお客さんや働く人がいないと勧めてしまった。



お客さんと店員さんの バランスが悪かった

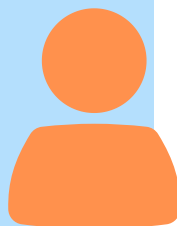
子どもたちが同じような時間帯で行動することで、お客と店員のバランスが悪かったように感じました。



Q.その他感想

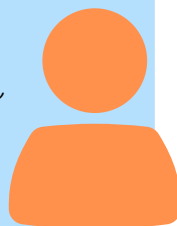
手話ではなくても 心は通じ合える

手話でなくとも心が通じ合えること、相手に関心を持って関わるのがコミュニケーションにとって大切であることを実感しました。



またこの環境で 子どもたちと関わりたい

考えたことをどんどん発言できる雰囲気づくりや、どんどん試してみることができる環境づくりがされているところが本当に素敵だと思いました。





「チャレンジタウン開催に寄せて」

特定非営利活動法人子ども&まちネット 副理事長
みんなでつくるチャレンジタウン事業コーディネーター
田中 弘美

私が「こどものまち」に出会ったのは、もう十数年前、子ども&まちネットが中村児童館で開催した時でした。児童館の中を子どもたちが駆け回り、店員やまちの住人となり、稼いで消費する、納税もするという社会のしくみを歓声を上げながら体験していました。ミニムンヘンから始まったこのプログラムに私は一気に魅了され、そしてすぐに「これは障害のある子どもたちにも、ぜひ体験してほしい」と思ったのです。

その後、子ども&まちネットは2010年のなごや子どもCityでも大人実行委員として参加し、障害のある子も受け入れるシステムを考えて名古屋市に提案し、実現しました。以来、子ども&まちネットが主催のこどものまちには、いつも障害のある子どもたちも参加してきており、また障害のある子どもたちだけのこどものまち(チャレンジタウンと命名)も2回実施してきました。

そして、今年度新たに、またチャレンジタウン開催に挑戦(チャレンジ)しました。随分と久しぶりの実施となり、心配なことも多々ありましたが、しかし(やはり、と言うべきか)チャレンジタウンに参加した障害のある子どもたちは、6回の体験講座とチャレンジタウン本番の2日間で、私たち大人をいつも驚きと感動に導いてくれました。彼らの発想、物事の捉え方、溢れるキラキラの感性(まさに、キラキラなのです)、そしてそこから発する言葉や彼らの創り出すものには、「健常者で大人」の私たちにはとても及ばない領域にありました。

チャレンジタウンでは、子どもたちが自分の考えや気持ちを伝える、自分で決定する、を大切にしています。障害があることでいつも保護者や先生達が決めていたり、どうせわからないから、と考えるチャンスも与えられないで大きくなってきている傾向があり、自分のことは自分で決めていい、という当たり前のことさえ保障されていないこともあると思います。

参加した子どもたちの保護者様からは「1人でやれるかしら?」「泣いちゃうんじゃないか」等とご心配の声も多く聞きましたが、子どもらはそんな心配をよそに、実にイキイキとまちの中で働き買い物をし、疲れたら休憩もしています。泣いたとしても、ちゃんとまたやり始めてくれます。自分で決められるって嬉しくて楽しい、と彼らは知っているからです。

障害があっても子どもでも、みんなやりたいことがあり、自分の考えもある。そしてやりたくないことも…。しっかりとあるのです。

そこを信じていけば、まちは動きだし変化し、彼らの笑顔に繋がります。体験講座もチャレンジタウンも、大人が運営こそしているのですが、実はいつも子どもらがいろいろ教えてくれて、大人はずっと助けてもらっているのです。本当に嬉しいことです。

また来たい、チャレンジタウン好き、今度はこんなお店を出すよ…そんな子どもらの声を聞くと、大変だなあーと思う反面、きっとまたやれると思えてきます。チャレンジタウンは、子どもたちの挑戦であると同時に、大人たちの挑戦でもあります。ここは大人としては果敢に挑まなければいけないでしょう。

障害があってもなくても、子どもらは未来を見て進んでいける、かけがえのない人たちです。キャリア教育の必要性が強く言われていますが、『こどものまち』にはキャリア教育の大事なことが、ぎっしりと詰まっていると思っています。もっともっと多くの子どもたちが、こどものまちに参加して、新しい発見、新しい自分と出会って欲しいと強く思います。

大人は子どもより勝っている。

健常者は障害者より優れている。

何となくだがそんな風に思ったり感じている人は少なからずいると思います。

確かに、大人や健常者は腕力や何かのスキル、理解するスピード等、子どもや障害者よりできることはあるのでしょう。

しかし、それが何だと言うのでしょうか。

チャレンジタウンに参加してくれた子どもたちを見ていると、そんなことを思うのです。



令和7年度 みんなでつくるチャレンジタウン実施報告書

発行 令和8年3月1日

作成 特定非営利活動法人子ども&まちネット

連絡先 〒464-0076 名古屋市千種区豊年町3-18 UR都通団地1-111

電話・FAX 052-768-5914

URL <https://www.komachi-111.com>



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業